

【授業科目】 母子支援看護学特論Ⅱ (小児看護学対象論、保健・福祉) (小児科目) Advanced Child and Mother Health NursingⅡ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
別所 史子、増田 由美	1年次前期	選択	2	30	講義	巻末掲載
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	<p>小児看護の基盤となる子どもの成長発達の基本知識、関連する要因を学び、子どもの成長発達の促進に寄与する支援方法を探求する。</p> <p>周産期・育児期における母親および家族の健康課題に関する研究の動向を概観し、専門的な視点から健康課題への支援に必要な基礎的能力を養う。そして、母子保健および児童福祉の変遷、制度・政策等の方策の現況を概観し、子どもと家族に有益な社会システムの構築に向けた今後の課題を探求する。</p> <p>授業は、実務家教員(別所、増田)が進める。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/それぞれの課題について学生とともに検討し、適宜コメントする。</p>					
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー①、③の達成に寄与している。					
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達過程と成長発達に影響する要因について説明できる。 2. 周産期医療の変遷とその背景について説明できる。 3. ハイリスク新生児と母親・家族が抱えている健康課題を系統的・包括的にアセスメントする方法について説明できる。 4. ハイリスク新生児と母親・家族が抱えている健康課題に対する多職種との連携・調整の方法、社会資源の活用について説明できる。 5. 母子保健・児童福祉の変遷と現況を理解し、課題を明確にできる。 					
時間外学習 に必要な 内容・時間	<p>配布資料や講義で紹介した論文や参考文献は通読し、予習・復習をして授業内容の理解を深め、積極的に意見交換をできるようにする。(各2時間)</p> <p>課題に関連した文献の検索・講読を行い、プレゼンテーションやレポート作成にいかす。(各2時間)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>					
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 母子看護学分野の文献、資料などをもとに、ディスカッションしながらテーマの理解を深める</p> <p>第2回 子どもや家族に対するアセスメント (1) 子どもの成長・発達のアセスメント</p> <p>第3回 子どもや家族に対するアセスメント (2) 子どもの発達における課題</p> <p>第4回 子どもや家族に対するアセスメント (3) 発達過程における子どもと家族のヘルスアセスメント</p> <p>第5回 子どもや家族に対するアセスメント (4) 子どもの健康問題と家族機能の関係、健康課題</p> <p>第6~7回 子どもの成長発達過程における健康問題が家族機能に及ぼす影響、看護における課題の検討 (プレゼンテーション、ディスカッション)</p> <p>第8回 ハイリスク新生児と母親、家族に対するアセスメント (1) ハイリスク妊娠の背景</p> <p>第9回 ハイリスク新生児と母親、家族に対するアセスメント (2) ハイリスク新生児の特徴と成長・発達上の課題</p> <p>第10~11回 周産期医療・看護における課題の検討 (プレゼンテーション、ディスカッション)</p> <p>第12回 ハイリスク新生児と母親、家族の健康問題や健康課題の解決に向けた重要な概念、理論</p> <p>第13回 母子保健および児童福祉の変遷、現状および今後の課題:法律・制度・政策・社会資源等</p> <p>第14回 わが国における母子保健および児童福祉に関する課題の検討 (プレゼンテーション、ディスカッション)</p> <p>第15回 まとめ 母子支援に関する今後の自身の研究課題を明確にする これまでの学修を通して得られた示唆と今後自身が取り組みたいと考える研究課題、 研究における重要な概念や理論の検討</p>					全て 別所、 増田
評価方法 評価基準	授業参加態度 25%、プレゼンテーション 25%、レポート 50%とし、総合的に評価する。					
教科書	教科書なし		参考書等	講義の中で適宜紹介する		